井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト企画

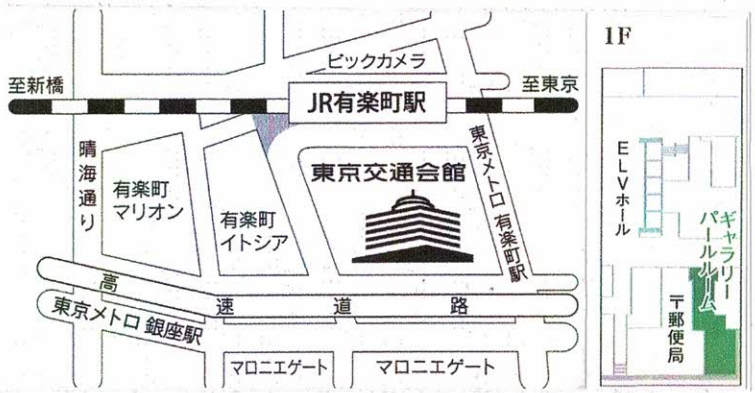
ヒロシマの高校生が描いた

世界平和祈念企画＆
文化・芸術振興企画

第４回　「原爆の絵」展in有楽町

【日　時】2022（令和４）年８月14日（日）～20日（土）
午前11時～午後６時（初日は午後１時～、最終日は午後５時）

【場　所】東京交通会館１Ｆギャラリー「パールルーム」
（東京都千代田区有楽町２－10－１　東京交通会館内郵便局隣り）



【協力金】500円（税込：中学生以上）　※小学生以下は無料

主催　井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会

協賛（予定）　城南信用金庫／ダイドードリンコ(株)／(株)白坂企画／(株)くもん出版
(株)きかんし／(学法)東京マスダ学院／立教大学社会学部 小倉康嗣研究室／広島と福島を結ぶ会
(株)ディア／(特非)nina神石高原／(特非)ピースウィンズ・ジャパン／亀戸畠山クリニック

協力（予定）　秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場／(株)写真弘社／歴史と文学の館 志麻利
ひろしまブランドショップＴＡＵ／生活協同組合パルシステム東京／中越パルプ工業(株)　他

後援（予定）　広島基町高等学校同窓会／(公財)広島平和文化センター／(公財)広島ＹＭＣＡ
中国新聞社／福山誠之館同窓会／ふくやま文学館／神石高原町／広島県／広島市／東京広島県人会
(一社)東友会　他

～次世代と描く「原爆の絵」～

いま広島で、県内各所で展覧会が開かれたり、各方面から交流を求められ、ＴＶ・ラジオ・新聞・演劇などメディアを大いに賑わせている高校生たちがいることをご存じでしょうか？

その高校生たちとは、広島市立基町（もとまち）高校の美術部に属する有志生徒です。彼ら・彼女らは見た目には普通の高校生ですが、被爆者から約半年～１年をかけて被爆体験や原爆被害の実相を幾度も聞き取り、資料を集め、より実情に近づけるべく、１人ひとりが個性や感性を最大限活かし、丁寧に細部を書き足しながら（被爆者は絵を目の前にすると次々と新たに当時の記憶が呼び覚まされると言われます）、油絵を創り込んでゆくのです。

被爆者のお話に誘（いざな）われ、自らも原爆投下のあの日にタイムスリップして追体験する…その取り組みは生半可な心身でできるものではないといいます。時に心や身体のバランスを崩す生徒もいるとのことですので、高校生といえども、いかに被爆者に寄り添い、真剣勝負であるかが察せられます。

こうした一連の協同（共同）作業によって、語り手の被爆者と聞き手・描き手の高校生の想いや意識が一体化した時、完成した絵は高校生のものと思えないほどの凄味（圧倒的な存在感と説得力）を持って観る者に迫り、心を揺さぶります。ただ、その凄味は、原爆の恐ろしさや戦争の悲しみ、やり場のない憤りや静かな怒りなど、様々な悲哀の表情にとどまりません。

未来ある高校生が挑み、描くからこそ、絶望が支配する絵の中にあって「自分たちが被爆者の想いを継いでゆくのだ」といった誓いや平和への願い、力強い意志がメッセージとして映し出され、観る者に一筋の希望や勇気をも与えているように感じます。

井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会とは

当会は、井伏鱒二先生の生誕120周年にあたる2018（平成30）年より、一過性でなく「継続は力なり」の考え方の下、井伏先生が原爆小説「黒い雨」を通じて後世に伝えたかったであろう【戦争の愚かさ・醜さ】、希求して止まない【世界の恒久平和】、そのために欠かせない【核なき社会】の実現に向けて尽力すべく「黒い雨」ゆかりの地：広島県神石高原町で発足。井伏先生が文豪で趣味人でもあったため、様々な文化・芸術関連団体と連携、その支援・協力にも努めています。

昨年１月22日、人類史上、画期的な「核兵器禁止条約」が無事に発効され、今年はいよいよ「核兵器の終わりの始まり」に向けて動き出す１年と大きな期待を抱いていた中、ロシアがウクライナへ侵攻し、第３次世界大戦が懸念される事態に…強力化した核兵器が使用されれば地球は滅びます。世界中が混沌とし、人類の英知が試されている今だからこそ、当会では「基町高校美術部」や「原爆の絵」の存在を多くの首都圏の皆様に見知って、若い世代の活動から勇気と元気をもらってほしいと考えています。

今夏も、親子や夫婦、友人など大切な方々と、平和について深く考察するきっかけとなれば幸いです。

＜問合せ＞　井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会 東京事務局
（担当：大越）ＴＥＬ：090－2754－5652　メール：ohkoshi@vega.ocn.ne.jp